地域住民総出の楽市楽座：商いで楽しく盛り上げ賑やかな商店街を目指す

# 小　千　谷　商　工　会　議　所

| | | | |
|---|---|---|---|
| **機関名** | 小千谷商工会議所 | | |
| **所在地** | 新潟県小千谷市本町２－１－５ | | |
| **電話番号** | ０２５８－８１－１３００ | | |
| **地域概要** | (1)管内人口　４万３千人 | (2)管内商店街数　３　商店街 | |
| **事業の対象となる商店街の概要** | (1)商店街数　１　商店街 | (2)会員数　８４　商店 | |
| | (3)空店舗率　１０．５％ | (4)大型店空き店舗　０　店 | |
| **商店街の類型** | 1.超広域型商店街　2.広域型商店街　3.地域型商店街　4.近隣型商店街 | | |

【事業名と実施年度】

平成 13 年度　　空き店舗対策事業　　イベント、情報発信、イベントスペース提供
　　総事業費　　6,398 千円

【事業実施内容】

１．背景

郊外型大型店の相次ぐ出店やモータリゼーションの発展、消費者ニーズや住環境の変化等により、中心市街地への来街者数が著しく減少したため、店舗閉鎖による空き店舗の増加、郊外への移転等により商店街の空洞化が急速に進んでいる。

このため、イベントを数多く開催することによって来街者を増加させ、失われつつある消費者と商店街とのコミュニケーションを取り戻し、商店街の魅力を再認識してもらうことを目的として実施した。

２．事業内容

（１）イベント事業「本町楽市楽座」

イベント事業を大きく２つに分け、「楽市」は誰でも気軽に楽しめるマーケット、「楽座」は誰でも参加できるイベントをコンセプトに実施した。

（２）情報発信事業

情報コーナーを設置して、公官庁、企業、団体等の様々な情報提供を行った。

（３）イベントスペース提供事業

企業、団体、個人を問わずスケジュールが合えば、イベント内容によって有料又は無料にて店舗の貸し出しを行った。

コンセプト　＆　ネーミング

本町楽市楽座

●「本町楽市楽座」の楽市は、小千谷及び周辺住民が、楽しく参加し、楽しく購入できるマーケットの意味

●「本町楽市楽座」の楽座は、小千谷及び周辺住民が、楽しく参加し、みんなで手作りしていくコミュニティ活動の場という意味

●本町という街区を、小千谷及び周辺住民　総出で、商いで楽しく盛り上げ、井戸端会議的なコミュニティであれあうにぎやかな場にしていくことを目指していく

**開催イベントの例　（平成 13 年 7 月～14 年 1 月まで 24 件開催）**

| イベント名称 | 開催月日 | 来場者数 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 街角ラボ　＆　七夕セール | 7 月 7・8 日 | 1,000 名 | 最初にオープニングセレモニーを行い、まちの駅を中心に七夕の装飾をして、七夕ムードの中で商店より独自のセールを実施した。まちの駅では、織物、パッチワーク、小国和紙、からくり風船、似顔絵の各コーナーで実演、販売を行なった。また、露天を出店して賑わい作りを行なった。 |
| 西脇正久　小千谷風景展 | 7 月 10～18 日 | 1,561 名 | 市報の表紙を飾っている西脇正久氏の水彩画を展示した。また、絵画の販売を行い、期間中は購入者が多かった。 |
| ふれあい楽市　真人・岩沢の巻 | 7 月 21・22 日 | 571 名 | 真人・岩沢地区で取れた新鮮野菜の販売は好調だった。その他、同地区の手作り豆腐、そば、コシヒカリなどの販売も行なった。 |
| 親子夏休み　工作教室 | 8 月 5 日 | 32 名 | 電動ミニルーターを使って、オリジナルデザインを強化ガラスに掘り込み参加者には好評だった。 |
| 全国闘牛サミット　牛の角突き展 | 9 月 8～14 日 | 839 名 | 全国闘牛サミットの小千谷開催に合わせて、まちの駅にて闘牛写真・絵画を展示し、各種関連グッズの販売も行なった。 |

【　効　果　】

（１）来街者状況

イベントの有無や内容により来街者数の変動が見られたが、本町商店街には公共公的機関が多く存在するため、そこからの帰りに立ち寄ったり、トイレを利用するなど利便性の向上につながった。

（２）認知度

事業開始前に各新聞社、テレビ局への取材要請を行ったほか、月１回市報、会報、地元新聞へ記事を掲載。またチラシ折込み等により消費者へ周知を行ったため認知度は高かった。

多目的スペース「まちの駅」外観

（３）事業効果

様々なイベントを通じて消費者とのコミュニケーションを図ることができ、本町商店街の魅力をアピールすることもできてイメージアップにつながった。商店街の中心に催事スペースができたことにより、多くの方々から好評をいただき、継続を望む声が寄せられた。

【課題・反省点】

全ての事業を実施主体単独で行うことは無理であり、どうしても地元、行政、団体、企業等から多くのご支援をいただくこととなるため、事前にコンセンサスを十分とっておかねばならない。

そして、この商店街活性化事業は、誰のために実施する事業なのかを商店街の方々から良く理解してもらう必要がある。個店によって事業に対する温度差が見受けられるので、内部の意志統一を十分図っておかなければならない。

親子夏休み工作教室

【　教　訓　】

イベント事業の実施は補助金無くして考えられないため、継続性という点では問題があると思われる。

また、実施していくうえで注意すべきことは、イベントのマンネリ化による客離れであり、事業内容を常に見直していかねばならないという点。そして、補助金の依存度が高くては、継続できないため事業効果はあまり望めない。ある程度の収益を考えた事業運営が必要である。

【関連ＵＲＬ】

小千谷商工会議所　　http://www.ojiyacci.org